

# もう一つの興味 串本の橋杭岩と津波石



## 橋杭岩

今から1,500万年ほど前(新生代第三紀中新生の中ごろ)、熊野層群とよばれる砂や泥の厚い地層が海底にたい積した。橋杭岩のまわりの黒っぽい地層は、その中の敷層層の泥岩からできている。この地層がたい積した頃、大島から潮岬付近の海底は火成岩の隆起帯になっていた。

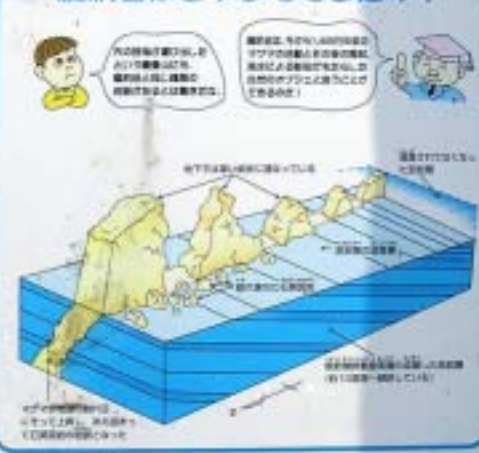
その後、1,400万年前になると、大峰山脈や那智から熊野にいたる地域で火成活動が起こった。この活動にともなって、北北西-南南東の方向にのびる地層の割れ目にそってマグマが上昇して冷えかたまり、橋杭岩のもとになる、直立した厚い板状の岩脈ができた。この岩脈は、石英斑岩という火成岩からできている。

やがて、すっかり陸地となった紀南の海岸は、荒々しい黒潮の波にさらされながらも、橋杭岩の岩脈はまわりの泥岩よりはるかに硬いために浸食されても残り、あたかも大島に向かって橋脚を並べたように、今もそそり立っているのである。

## 橋杭岩周辺の地層・岩石の分布



## 橋杭岩はどうしてできたの？





**橋杭岩の周辺に散らばる巨礫は津波で移動した津波石ではないか？**

**[産総研：岡本行信氏のコメント，文科省地震本部ニュース2011年10月～2012年1月合併号より]**